## [推進体制]

# 指導方法・体制のポイント

校内推進組織の設置 推進計画の立案 児童・保護者へ説明 意見聴取

## 〔チーム・ティーチング〕 1~2年生(T. T. )

すべての算数の授業で 担任と講師の2名体制 役割を明確にして指導

## 〔習熟度別指導〕 3~6年生

- ① 児童一人一人の特性を理解するとともに、習熟の程度を的確に把握する。
  - ・レディネステスト ・各種学力調査 ・東京ベーシック・ドリル
- ② 習熟の程度に応じ、学級の枠を超え、効果的な学習集団を編成して実施する。
  - 学年2学級 → 3展開 ・学年3学級 → 4展開
- ③ 学習集団は、単元の内容に応じてその都度編成し、年間を通して固定しない。

#### ていねいコース

#### じっくりコース

## チャレンジコース

例 1

平行四辺形の面積の公式を作り出し、それを適用して面積を求めることができる。

班の3人の考えをもとに、平行

四辺形の求積公式を導く。



・公式を作るには、等積変形した長方形のどこの 長さが分かればよいかを考える。

・底辺、高さの意 味を知り、その 関係をおさえて 平行四辺形の求 積公式を導く。



平行四辺形を等積変形して、平 行四辺形の求積公式を導く。



例 2

指

導

計

画

## 円周について知り、円周は直径の3倍以上4倍以下であることを理解する。

メジャーの上に円を転がし、およ そ3倍であることを体感する。



- ・ 4 台の一輪車の直径を進んだ距離から、直径と円 周の関係について考える。
- ・ 円周の意味を知 り予想した上で、 直径のおよそ何 倍かを調べて、 発表し合う。



デジタルコンテンツをもとに、多 角形と円との関係から推論する。



# ここがポイント

いわゆる教師による「落ちこぼ し」の解消だけではなく、「伸び こぼし、の解消もめざす。

- 学習の遅れやつまずきのある児童の学習集団においては、必要に応じ て前学年までの既習事項の学び直しや反復学習などの「立ち戻る指導・ 補充的な指導」も行い、「分かる・できる」まで繰り返して指導する。
- 習熟が早く、さらに学習を進めていきたい児童の学習集団においては 発展的な内容の学習や課題学習などによる「発展的な指導」も行う。

は、その特性に応じた指

- 集団学習のねらいと個別学習のねらいを明確にし て指導する。
- 文章を短く区切る、視覚化、動作化する、細かな 段階的指導を行う、環境整備など。

教科の系統性を踏まえた一層 の習熟を図る教材と発展性の ある教材を開発する。

- 個に応じたきめ細かな教材の準備、個別支援表等を 作成・活用し、学習集団の特性に応じて・・・
  - ・学習速度の違いに応じた課題や教具等
  - ・学習の仕方の違いに応じた課題や教具等
  - ・興味関心の違いに応じた課題や教具等